

未来の見えるお米づくり

田幸小学校 六年 西田 彩

「ブーン」

そんな音が聞こえて私は、パツと後ろをふり返りました。するとそこには、なんとドロロインがあったのです。それもただのドロロインではなく、とても大きくてじょうぶそうなどろロインでした。しかも田んぼに何かをふりまいているように見えました。あれは田んぼに肥料をまいてるんですよ。

とお父さんが教えてくれました。他の地域でドロロインやヘリコプターを使って仕事をしているのは知っていたけど、まさか私の地域までドロロインを使っていたのは知らなかったのだから田んぼ作りの技術が進んでいるということにびっくりしました。

初めてドロロインを見た日の夜ご飯、私はこのお米もドロロインを使って作ったのかな

？

とか

1 5 10 15 20

「だれがドローンを動かしているの？」

など頭の中がはてな？でいっぱいになりました

た。

次の日私はお父さんに質問してみました。

「何でわざわざドローンを使って仕事するん

？だれが動かしたるん？」

するとお父さんは

「今、田んぼを作ったのはお年寄りばかり

じゃろ？じゃけえ田んぼにわざわざ入って

肥料をまくより、ドローンの方が楽なんよ。

そうじゃうは専門の人がやるとるんよ。

今、お年寄りが多い私たちの地域で、こんな

地域でもできること続けられることをして、

みんなが協力していたんだと私は感心しまし

た。

私は小学五年生のころ、学校で田んぼ作り

を体験しました。手作業で行ったのでしんど

くてつらくて、昔の人は、なんて体力がある

んだと思いましたが。でも昔の人もしんどいな

か作業してきたのは同じです。だから昔の人

5
10
15
20

も私の先祖も今のような未来がくることを望んでいたのかなあと思いましたが。もし本当にそう望んでいたらなら過去に行ってみんなに教えてあげたいです。

未来ではお米づくりの技術がすごくてとても楽に作業できるよ。でも人と協力しないといけないのは変わらないけどね。

その日の夜ご飯、私は改めてお米づくりは人と人との協力が必要なんだなあと思いましたが。時には一人で時にはみんなで協力すること。今は、今私がくらしている学校生活でも同じだなと思いました。

そして私はつやつやに光ったお米を見ながら言いました。

「いただきます」。

と笑顔いっぱいでのその一言を。